

# 活動報告書

報告者氏名: 西山 晃人 所属: 宮崎県立清武せいりゅう支援学校 記録日: 2015年 2月27日

## 【対象生徒の情報】

- 学年 中学2年女子
- 障がい名 知的障がい・肢体不自由
- 障がいと困難の内容
  - 脳性麻痺による両上下肢機能障がい。(手指機能・上肢筋力の低下)
  - 漢字やアルファベット、記号を覚えるのに時間がかかる。
  - 線や升目のない紙(ノート)にまっすぐ文字を書けず文字の大きさも揃わないため、ノートやメモを読み返すことが難しい。
  - 脳性麻痺を起因とする、視覚的・身体的空間認知力低下。

## 【活動目的】

- 当初のねらい 1. アルファベット(大文字)とローマ字の読みを習得し、書字行為をローマ字入力に移行する。  
※ローマ字入力は生徒の希望 (学習面)  
2. 車いす生活を安全に送るため、移動の際に起こりうる危険を知り、安全意識を高める。  
(生活面)
- 実施期間 2014年5月~2015年1月
- 実施者 西山 晃人
- 実施者と対象生徒の関係 中学部所属職員

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### • 対象生徒の事前の状況



1 連絡帳の記入や授業中のノートテイクに時間がかかるうえ、書いた文字や文章の形が整わないため、他人に伝わらないことや自分も読めないことがあり、宿題の回答やメモなど伝達・記録としての文字の使い方に困難を感じていた。

中学1年時の2学期から国語の授業でパソコンを用いたローマ字入力に臨んだが、授業時間内に入力が終わらないことが続き、本人の意欲が低下したため学習を継続することができなかった。しかし、身近な高等部の生徒たちがローマ字入力を練習し、全国商業高等学校協会(全商協)のビジネス文書実務検定試験(旧ワープロ検定)資格を取得したことに強い衝撃を受け、本年度よりワープロ技能(ローマ字入力)の習得を強く願うようになった。

2 地元の公立小学校卒業まで、移動のほとんどを周囲の介助に頼ってきた。本校入学後、広くフラットな校舎内を自力で移動する生活を始めたが、周囲の人や物に対する距離感、接触や衝突による危機意識が乏しい。しかし、成長とともに社会生活への関心の高まりと体力的な自信から外出を希望するようになり、安全に対する意識が少しずつ芽生え始めた。

### • 活動の具体的内容

1 ローマ字入力に慣れるための活動

- ①. アルファベット(大文字)を覚える  ②. ローマ字を覚える  ③. ローマ字入力に慣れる
- (5月下旬~7月上旬) (7月中旬~10月中旬) (10月下旬~現在)

①「アルファベット(大文字)を覚える」では、生徒が自分のペースで、能動的に大文字の形のみを覚えるために、生徒の見やすさ(コントラスト、フォント、大きさ等)を参考意見として取り入れ、アクセシビリティ

ティの操作とアプリケーション「Keynote」でスライドを作成した。後にスタンドや低反射保護フィルムなどの自助具も活用し、より視覚的理解をサポートしていった。

②「ローマ字を覚える」では、生徒自身が楽しみながら学習に取り組み、且つ定着度を自覚できることを考慮したタイピングアプリケーション「ローマ字ロボ」を使用した。

③「ローマ字入力に慣れる」では、気になるニュースをインターネット上で探して読み、それに対する感想文の作成を課題とした。また、作文の入力には iPad 内蔵の JIS システムキーボードを使用し、文字配列と指の動きを反復練習した。

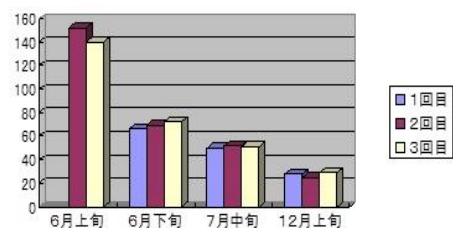
## 2 安全意識を高めるための活動

①車いすの左右後方と真後ろに WiFi カメラを固定し、前方にアーム類で固定した iPad で死角の様子を知る機会を増やした。

②車いす上の目線の高さに iPad を固定し、内蔵カメラで日頃の自分の動きや廊下での位置取りを録画して振り返った。

### ・対象生徒の事後の変化

1-①アルファベットを、自分の見やすい色・大きさ・フォントで表示できたことで、斜視の見えにくさからくるイライラ感を解消でき、文字の理解が早くなった。右のグラフは、A から Z の 26 文字を「Keynote」で 1 文字ずつ表示（ランダム）し、最後まで答える時間とその変化である。なお、6 月に行った 1 回目とその前は、B・D・E・F が答えられず最後まで暗唱できなかったため、時間を記録できなかった。



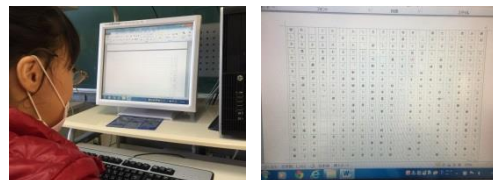
(縦：26文字暗唱時間(秒)、横：評価の時期)

1-②アプリケーション「ローマ字ロボ」や「タイピングHi」を使い、楽しみながらタイピングが早くなったことを実感できたことで、学習意欲を持続できた。また、ワープロ検定問題集を用いた模擬試験を定期的実施し、当初の目的を確認しながら学習を進めた。



入力速度 (6月:平均65文字/分→12月:平均13文字/分)

1-③インターネットのニュースや記事を読んで感想文を作る活動を続けることで、JISシステムキーボード入力に慣れることができ、その後国語科の授業でも作文や感想文の入力にパソコンを使用するようになった。



(修学旅行の感想文を1600文字で作成)

2-①移動中の後方死角を視覚的に確認した経験を生かし、狭い場所や人混みの中で後方に注意を払うように意識し始めた。



2-②録画した記録を視覚的教材として活用することで、客観的に自分の様子を確認し安全な走行を意識できるようになった。

(動きを録画→振り返る) (右側通行と減速の様子)

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

1. ローマ字入力に慣れるとともに、毎日の作文にゆとりが生まれたことで、毎日読んでいるニュースの文章がわかりやすく書かれていることに気付いたのではないかと。(学習面)
2. 自分の行動を映像で振り返ることができるようになり、言葉やジェスチャーで示す以上に理解しやすく

なったのではないか。

・エビデンス(具体的数値など)

1. ローマ字入力に慣れてきた7月から、インターネットニュース(トピック)を読みながら感想を入力する課題に取り組んだ。初めは、句読点や段落の分け方などの添削指導が中心だったが、毎日記事を読んでいるうちに、日時表記→具体的内容→感想の順にまとめるパターンで作文するようになった。その理由を尋ねると、「いつも書かれている順番(日時が初め、内容が真ん中)が同じだから」と答えた。

7月23日(水)  
今日は、ひき逃げ事件の事を書きます。  
今日の午前10時15分ぐらいに、愛知県小牧で、大破した自転車と血痕を見つけたと、通行人から110番通報がありました。  
路上には、約600メートルに渡り、  
しており、県警小牧署は一人が自転車ごと、車に引きずられて、死亡したひき逃げ事件として捜査しているそうです。  
大型な車が引いた可能性が、あるそうです。犯人はまだ逮捕されてないそうです。だから早く逮捕してほしいとおもいました。

(感想文課題：7月23日入力)

(日時表記 □ 内容の説明 □ 感想 □)

Grid of Japanese text with colored boxes highlighting specific parts like '日時表記', '内容の説明', and '感想'.

(11月入力の修学旅行感想文)

また、国語の授業で修学旅行の作文を指導した際、「いつ・誰が・何を・どのように・どこで・どうして」(5W1H)の要素を意識して表現するよう指導を受けた。その時の作文も、「日時の順に、見学地の様子を具体的に説明し、自分の感想で締めくくる。」を繰り返すシンプルな方法で構成されていた。

2. これまで、学習や生活において言葉やジェスチャーによる指導を行うと、理解できずに黙ってしまうことがほとんどだった。しかし、自分の行動を動画で振り返るようになり、「ここが危なかったんだね」や「わかった！」など、指摘された内容を理解できたと思われる言葉が聞かれるようになった。



(動画確認前のつぶやき)

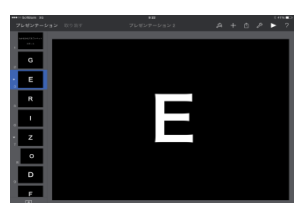


(動画確認後コメント)

自分の動きを視覚的・客観的にとらえられたことで、十字路やT字路など見通しの悪い場所では、「減速」や「一時停止」とつぶやきながら移動している姿が他の教職員にも目撃されるようになった。さらに、正面から来る人の動きも気にとめ、避けられないと判断した場合や、自分がどうすべきかわからないときは、その場に止まり危ない場面を作らないようになってきた。

・その他エピソード(画像などを含めて)

本生徒は、これまでも人前に立つことや人が喜んでくれることを率先して行う性格だったが、iPadを活用するようになり、さらにその意欲が増してきた。アルファベットの学習に「Keynote」を使用して間もなく、スライドの作成方法とカメラや接続機器(テレビやプロジェクター)との接続が容易なことに気づいた。そこで、上級生が全校集会で読み聞かせを行うことを知り、iPadの「カメラ」と「Keynote」を活用して「絵本をスライドにして手伝いたい。」と言い出し、スライドの絵本を作成した。自分の経験から、視力の弱い児童や小学部低学年の児童が見やすいようにしたいと、「背景に黒色の画用紙を置くと見やすくなると思う。」や「写真の周りを切り取った方がすっきりすると思う。」などの考えを取り入れながら、トリミングや色彩の調整を自分で行い、「Keynote 絵本」を作成した。



(アルファベットのスライド)



これが多くの児童・生徒や教職員に評価され、その後本人の学習意欲と自信となった。(スライド絵本作成の様子) また、小学部の児童が「Keynote」のスライドを全校集会で活用したり、声の出ない児童が音声読み上げ機能を活用して文化祭に望むなど、iPadの基本的機能をもっと活用しようという動きが起こってきた。

